

「足りないもの、足りているもの。希望、不安、夢、展望、課題、そして現実。」
～自分たちから考え、この町に夢を見よう～



郷土の誇りを取り戻そう。きらめく景観を磨きだそう。環境を守り育てよう。たくましい地域力を醸成しよう。明日の夢を形にしよう・・・
まちづくりフォーラム2日目。上流域、農山村が抱えている課題や現状を分析するため、5つの分科会に分かれてワークショップを行いました。
それぞれの分科会で熱心な討論が行われ、2時間の予定時間をいっぱいにして様々な意見を交わしました。
この分科会の一つ「子ども分科会」には、大人に交じって本川根中学校の生徒10人が参加しました。生徒たちは昨年1年間取り組んできた「総合的な学習の時間」の中で、川根本町の歴史や文化、観光資源などについて学んでおり、その成果を分科会の中で発表し、大人の参加者と意見を交換しました。
子どもたちが描く川根本町への夢・未来・そして不安がそれぞれの学習成果に表現されています。子どもたちが描く未来予想図。それは次世代に続く「まちづくりの方向性」です。

「原生自然保全地域の可能性」 本川根中学校3年 安竹隆太

「将来あなたはこの町に住んでいると思いますか?」「住んでいない」「わからない」と答えた生徒81%。僕はこの結果を見てびっくりした。これは、先生が話してくださった、本川根中学校の生徒へのアンケート結果だった。

僕の住む川根本町は、自然豊かなとても良いところだ。しかし、高齢化率約38・5%（県下1位）の過疎化の進む町だ。アンケートの結果を知ったとき、この町の50年後はどうなるのだろう、と不安になった。これから町のためにできることは何か。僕は、町民がもつこの町の良さを感じ

川根本町には世界に誇れる「宝物」がある。僕はこの宝物の素晴らしさを、町の人々に伝えていきたいです。



僕に住んでいる寸又峡地区とは、地図上ではほんの目と鼻の先のように感じられ、とても驚いた。また、この地域は環境大臣が指定するもので「当該地域の自然環境を保全することが特に必要と認められ、人の活動によ

き、この町に愛着と誇りを持ってもらうことと、そして、この町に活気を取り戻すことだと考えた。交流人口を増やすこと、その起爆剤になるのは何か考えてみた。そんなとき、耳にしたのが「原生自然保全地域」だった。僕はそのとき、この川根本町に世界へ向けて誇れるものがあることを知り驚いた。だから起爆剤はこれだと思ったのだ。まず始めの疑問は「原生自然保全地域とは何だろう」ということだった。調査してみると、僕はそこですごくいいところを知ってしまった。なんと、この原生自然保全地域というのは日本で5カ所しかなく、しかも本州では川根本町だけなのだそう。これは僕にとって強いインパクトだった。

って影響を受けることなく原生状態を維持していること」が条件となっていた。日本の5つの指定地域は、遠音別岳、十勝川源流部、南硫黄島、大井川源流部、屋久島だった。それらはとても有名な場所ばかりで、そのような地域と肩を並べていることが、すごいと感じた。さらに、なぜ大井川流域が指定されたのか、という疑問がわいてきた。大井川源流部が指定を受けたのは、「日本を代表する温帯針葉樹林、亜寒帯針葉樹林で、野生動物の生息地としても重要」という理由から指定されたようだ。ところで、なぜこれほどまでにすごい地域を、みんなは知らないのだろう。

そのことについて、役場で質問したところ「原生自然保全地域はもともと、手つかずの自然を保護するための地域である」ということと、アクセスが非常に悪い「ため」ということだった。僕はこの町のために、活用する手だてについて考えた。まず始めに思ったのが、「世界遺産化を目指す」ことだ。

世界遺産の登録をすれば、静岡県内の川根本町の名前が世界の人々に紹介され、町民は当然この存在を知ることとなり、町の活性化につながるのではないかと考えた。そのことについて役場で聞いてみた。すると、「国の基準があつてうまく進まなかった」という回答だった。僕は世界遺産について調べてみた。その結果、日本の世界遺産推薦候補箇所19地域に選ばれている

事実が分かったのだ。しかし残念なことに最終選考までは残らなかったようである。なぜなのかわ、山に詳しい人に聞いてみることにした。すると「この地域の特徴としては、異なる気候帯の接点となっており、非常に多くの種類の植物がある。そしてそれが手つかずの状態である。これが特徴で、ここしかないという特徴が少し弱い」ということだった。でも僕はこの世界遺産化の夢はとても良いことだと思う。そして、もう1つの提案として、町民が最低1回はこの地域に行くことができる仕組みづくりが必要だと思う。見たことも行ったこともないのに、原生自然保全地域を守ろうという意識は生まれたい。だからぜひ、一度見てみることはとても大切なことだと思う。

僕は、素晴らしい宝物が川根本町にあるということに感動し、嬉しくなった。それと同時に、僕たちの手でこの自然を守っていかねばならないと感じた。この調査にあたり、多くの人にお話を伺った。その方々は、町のことを大切に考え、自然が大好きな人たちだと感じた。このような町民が増えることで、町に愛着を持つ人が増え、町の活性化にもつながっていくのだと思う。

僕はこれから、川根本町の宝物についてもっと知り、この町についての理解を深め、この自然の素晴らしさについて伝えていきたいと思っている。